

令和5年度 学校評価について

1 令和5年度の学校運営について

令和5年度学校経営重点取組事項

- 1 学校教育目標・目指す児童生徒像・学校像の実現に向け、学部・分掌部における令和4年度の課題改善に着実に取り組む
 - 各部・分掌部ともに、昨年度の反省から今年度の重点取組事項を決め、計画的かつ組織的に課題解決に取り組み、おおむね目標を達成できた。(各部・分掌部の自己評価参照)
- 2 学習指導要領に基づく教育活動の充実を図る
 - (1) 自立活動の充実
 - 課題関連図に基づいた指導計画の策定に係る専門性のさらなる向上と「時間の指導」と「教育活動全体での指導」の明確化
 - 校内で統一様式を用い、児童生徒の課題を明確にして指導計画を作成した上で担任間や指導グループで情報を共有して指導している。
 - 集団で指導する中で、個々の課題に向けた指導が十分でない場合があるので、指導体制や指導者のスキルアップなどは今後の課題である。
 - (2) 小・中・高等部一貫した教育課程の編成とキャリア教育の推進
 - 小・中・高等部の系統性のあるキャリア・パスポートの実践と目指す児童生徒像を意識した行事の検討及び実施
 - 校内で統一した様式を用いて、全校共通で「虹のまつり」を取り上げたほか、各部で必要な行事や活動を取り上げて実践した。今後も児童生徒のキャリア形成に役立てていく。
 - 県教育委員会特別支援教育課に現職教育の講師を依頼して、夏季休業中にキャリア教育に関する研修会を開催した。キャリア教育の定義やキャリア・パスポートの活用法などを確認することができた。
- 3 保護者の信頼に応える学校事務運営を図り、教育環境の改善への取組を推進する
 - 高等部校舎増築の安全な工事と小・中学部教室移動に向けた計画的な業務の推進
 - 高等部校舎増築について、工事の進捗状況をホームページで公開するほか、保護者へは随時メールでお知らせしている。
 - 児童生徒の工事現場見学により、工事の様子を知るとともに安全について学ぶ機会になっている。
- 4 寄宿舎と学校・家庭との連絡・連携体制の強化を図り、円滑な寄宿舎運営に努める
 - 登校がスムーズにできない生徒への学校との連携を密にした指導・支援の推進
 - 日頃から寄宿舎・学校・家庭が連携して指導・支援している。
 - 気持ちが安定しない生徒に寄り添い、生活習慣の改善や服薬支援に努めている。
- 5 特別支援学校におけるスポーツ・文化芸術活動の推進を図る
 - 児童生徒作品の校内掲示の充実と各種作品展への応募の推進
 - 高等部活動の充実と各種大会や作品展への積極的な参加の推進
 - 各部とも積極的に校内で作品掲示をしている。中学部は、中文祭作品展、高等部は、高文祭作品展や特別支援学校高等部作品展、高等学校大村美術展等に出展した。
 - 陸上競技部、サッカー部は、対外試合に積極的に参加している。鹿児島県で開催された、全国障害者スポーツ大会に、陸上競技2名、水泳2名、バスケットボール1名の計5名の生徒が県代表として出場した。
 - V・ファーレン長崎の地域貢献事業の一環で、高等部の授業でサッカー教室を開催した。

6 学校教育課題の改善に向け、計画的・組織的に学校・学部・分掌運営に努める

(1) ICT教育の充実

- 授業におけるICT機器の活用の推進
- 休業中におけるICT機器を活用した学習の取組の充実
- 授業でタブレットPCを使う機会が増えている。調べ学習や発表など、児童生徒の操作技術の向上が見られる。
- 今後も学習に適したアプリを導入し、児童生徒・職員ともに積極的な活用を推進していく。

(2) キャリア教育全体指導計画の見直し

- 4つの汎用的能力を小・中・高一貫して育む全体指導計画の作成(教務部・進路指導部・研究部主任によるワーキンググループを立ち上げ)
- 全体指導計画を見直し、小中高の一貫性を示した。教育課程にしっかりと位置付けて、日頃から意識して指導していく。

(3) 登校が難しい児童生徒への関係機関と連携した対応の充実

- 外部専門家、SC、SSW、県教育センターの教育相談機能等の有効活用
- 定期的な校内ケース会議の実施
- 専門家に相談しながら対応している。家庭と連携して、一部の児童生徒はリモートでつながりをもっている。本人の負担にならない範囲で登校を促しながら、将来のことを考えていく。

(4) 児童生徒の人権を意識した指導の徹底

- 体罰・不適切な指導0に向けた日頃の声掛けと研修の実施
- 日頃から、児童生徒及び職員の人権を意識した言動をするよう呼び掛けている。
- 夏季休業中に人権に関する校長講話実施

(5) 安心安全な学校運営の推進

- 感染症防止対策の徹底
- 不審者対応やろう学校などと連携した避難訓練の実施
- コロナが5類に移行後も、諸々の感染症対策として手洗い・うがい・手指消毒を励行している。
- 地震・火災避難訓練、不審者対応訓練、救急救命訓練などを実施して、職員の役割を確認するとともに、児童生徒には避難の仕方や自分の身を守ることを指導している。

(6) 本校主幹業務の計画的・円滑な推進

- 長崎県音楽教育研究会特別支援学校部会事務局、高等学校大村美術展の円滑な運営
- 長崎県健康教育研究協議大会「食に関する指導」の発表
- それぞれ滞りなく運営できた。事務局業務については、次年度事務局校に引継ぎをする。

(7) ろう学校との連携の充実

- 行事の実施や運動場使用での協議の実施
- 毎月、運動場使用について協議して運動場使用計画を明示している。今後も継続する。
- ろう学校の運動場に虹の原の運動用具置場がないため、毎時間、担任が持ち運びしている。管理責任もあるため、今後、双方に負担のない方法を検討する必要がある。

(8) 持続可能な持続可能なPTA活動の検討

- コロナで活動を制限していたが、PTA研修会や広報誌作成・発行、ベルマーク収集・仕分け、水分補給用に高等部作業製品が当たるくじ付きのお茶配付など、会員に負担のない範囲で活動を再開することができた。
- 理事の選出方法についてアンケートを取った。次年度以降の運営に役立てていく。
- 長崎県公立校等学校PTA連合会の令和5年度広報誌コンクールにおいて、本校の広報誌「虹」が奨励賞をいただいた。

2 学校評価の結果と改善策について

(1) 自己評価の結果について

【改善策を検討する視点】

- ① 自己評価表 1、2 ⇒ 評価が低かった項目（C及びD）
- ② 教職員、児童生徒、保護者アンケート
 - ・ 平均値が中央値である 2.5 ポイントを下回った項目。
 - ・ 昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目。
（今年度はアンケートの内容を変更したため、昨年度との比較は可能な範囲で行う。）
 - ・ 「達成度」が 75% を下回った項目。
※達成度とは、4段階評価で「4」又は「3」と評価した人の割合。達成度という考え方を
用いると、平均値の比較だけでは見えない評価の内訳を分析することができる。
 - ・ 自由記述に意見が挙がった項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断した項目。

① 小学部の取組 **※資料1の1ページを参照**

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

② 中学部の取組 **※資料1の2ページを参照**

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

③ 高等部の取組 **※資料1の3、4ページを参照**

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かったの（C及びD）は、本年度重点目標①の1項目だった。

④ 高等部対馬分教室の取組 **※資料1の5ページを参照**

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

⑤ 各分掌部の取組 **※資料1の6～15ページを参照**

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）があったのは、以下のとおり。
教育環境整備部の重点取組事項④ ⇒ C **資料1の10ページを参照**
進路指導部の重点取組事項① ⇒ C **※資料1の12ページを参照**
- ・ 上記の項目以外は、全てA又はBの評価だった。

⑥ 寄宿舍（舎務部）の取組 **※資料1の16ページを参照**

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

⑦ 事務部の取組 **※資料1の17ページを参照**

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

⑧ 教職員アンケートの結果 **※資料2の1、2ページ、資料3を参照**

- ・ 昨年度までは、「教育環境（明るさ、清潔面、安全面、環境美化など）」のように、11項目について4段階で評価をし、自由記述に意見や要望を書くという形だったが、今年度は、より詳細に評価できるようにアンケート内容を見直し、28の項目への4段階評価と自由記述という形に変更した。また、回答方法は、校務用PCやタブレットPCなどから回答できるように、基本的にwebアンケートとし、webによる回答が難しい教職員にはアンケート用紙を配付して実施した。

- ・回答者数は176名（小学部34名、中学部27名、高等部60名、高等部対馬分教室8名、管理職・事務職員・寄宿舎指導員等47名）で、回答率は100.0%だった。休職中の教職員を除いて全員が回答した。
- ・176名のうち、web回答は164名、紙媒体での回答は12名だった。
- ・全体集計の平均値は、3.1ポイントから3.5ポイントの範囲にあり、中央値である2.5ポイントを下回った項目はなかった。また、昨年度と比較して、平均値が0.5ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・全体集計の達成度は、81.0%から99.4%の範囲にあった。達成度が75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、高等部集計では、NO.9「交流及び共同学習」が68.8%、NO.28「総合評価」が73.7%だった。
- ・自由記述には、9名から意見や要望があった。内容は、会議に関すること、ろう学校のグラウンド使用に関すること、高等部における交流及び共同学習に関すること、インターネット環境や校務用パソコンに関することなどであった。

(2) 外部アンケートの結果について

①「児童生徒アンケート」の結果

※資料2の3、4ページ、資料3を参照

- ・昨年度まで児童生徒向けのアンケートは実施していなかったが、児童生徒の意見や要望を把握するため、今年度初めて実施。学級活動やLHRなどの時間に教職員が立ち会って実施し、無記名での回答とした。回答方法は、基本的に紙媒体での回答とし、webでも回答できるようにした。また、回答が難しい児童生徒もいるため、「回答できる児童生徒のみの実施で可」、「回答できる項目のみの回答で可」とした。
- ・回答者数は179名（小学部13名、中学部60名、高等部99名、高等部対馬分教室7名）で、回答率は56.3%だった。
- ・179名のうち、紙媒体での回答は151名、web回答は28名だった。内訳は下の表のとおり。

回答方法	小学部	中学部	高等部	対馬分教室	合計
紙媒体	13	60	78	0	151
web	0	0	21	7	28

- ・全体集計の平均値は、3.2ポイントから3.5ポイントの範囲にあり、平均値が0.5ポイント以上下回った項目はなかった。昨年度はアンケートを実施していないため、平均値の比較はできない。
- ・全体集計の達成度は、82.7%から95.4%の範囲にあった。達成度が75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、高等部対馬分教室集計では、NO.9「部活動」が71.4%だった。
- ・自由記述には、40名から意見や要望があった。「学校を楽しくするためにはどうすればいいか、意見や考えがあったら書いてください。」という問いに対し、「ここを変えてほしい」という意見はあまりなく、「自分がこうしたい」という意見が多かった。ただし、高等部生徒からは、学校生活に係る意見が複数名から出ていた。

②「保護者アンケート」の結果

※資料2の5、6ページ、資料3を参照

- ・教職員アンケートと同様、昨年度までは、「教育環境（明るさ、清潔面、安全面、環境美化など）」のように、9項目について4段階で評価し、自由記述に意見や要望を書くという形だったが、今年度は、より詳細に評価できるようにアンケート内容を見直し、14の項目への4段階評価と自由記述という形に変更した。また、回答方法は、個人のスマートフォンから回答できるように、基本的にwebアンケートとし、webによる回答が難しい保護者にはアンケート用紙を配付することにしてきたが、実際には全員がweb回答だった。

- ・全体の回答者数は 178 名、回答率は 56.0%で、昨年度の 86.9%を大きく下回った。回答者数等の内訳は下の表のとおり。※（ ）内の数字は、昨年度の数字。

	小学部	中学部	高等部	対馬分教室	合計
児童生徒数	86 (81)	72 (76)	151 (149)	9 (9)	318 (306)
回答者数	50 (79)	46 (68)	78 (119)	4 (9)	178 (266)
回答率	58.1% (97.5%)	63.9% (89.5%)	51.7% (79.9%)	44.4% (100.0%)	56.0% (86.9%)

- ・回答率は全般的に低かった。その原因は特定できないが、昨年度までは紙媒体で実施していたものを、今年度から web 回答に変更したことが影響していると推測される。また、内訳を見ると、高等部及び高等部対馬分教室の保護者の回答率が他の部よりも低かった。これは、アンケートの回答期間に、本校は 1 年生と 3 年生、高等部対馬分教室は全学年が就労体験実習を実施しており、時期が重なったことが影響しているのではないかと推測される。
- ・全体集計の平均値は、3.2 ポイントから 3.6 ポイントの範囲にあり、中央値である 2.5 ポイントを下回った項目はなかった。また、昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目はなかった。ただし、高等部対馬分教室集計では、NO.9「寄宿舎の指導」が 1.7 ポイント、NO.11「美化」が 2.0 ポイントだった。
- ・全体集計の達成度は、80.5%から 98.8%の範囲にあった。達成度が 75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、高等部集計では、NO.3「交流及び共同学習」が 74.6%、高等部対馬分教室では NO.9「寄宿舎の運営」が 33.3%、NO.11「美化」が 50.0%だった。
- ・自由記述には、20 名から意見や要望があった。内容は、児童生徒への指導や関わり方に関すること、授業参観や学級懇談会の回数に関すること、学部間の連携に関することなどであった。

(3) 改善策について

①改善策を検討する項目等の選定について

【改善策を検討する視点】

- ① 自己評価表 1、2 ⇒ 評価が低かった項目（C 及び D）
- ② 教職員、児童生徒、保護者アンケート
 - ・平均値が中央値である 2.5 ポイントを下回った項目。
 - ・昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目。
(今年度はアンケートの内容を変更したため、昨年度との比較は可能な範囲で行う。)
 - ・「達成度」が 75%を下回った項目。
※達成度とは、4 段階評価で「4」又は「3」と評価した人の割合。達成度という考え方を
用いると、平均値の比較だけでは見えない評価の内訳を分析することができる。
 - ・自由記述に意見が挙がった項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断した項目。

ア 自己評価表 1：各部等の取組に関して

4 段階評価で、評価が低かった項目（C 及び D）があったのは、次の 1 点。

- ・高等部の本年度重点目標① ⇒ C ※資料 1 の 3 ページを参照

- ① ICT 機器を活用した指導を工夫し、学習意欲や学習効果の向上を図る。
 - ・長期休業中のタブレット PC の持ち帰りを考慮した、アプリの準備と学習課題の設定。
 - ・各教科会における活用状況の確認と活用例の共有。(他学部の活用例も参考)

⇒ 改善策を検討する。

イ 自己評価表2：各分掌部等の取組に関して

4段階評価で、評価が低かった項目（C及びD）があったのは、次の2点。

- ・教育環境整備部の重点取組事項④ ⇒ C **資料1の10ページを参照**

④通常のごみや資源ごみなどが正しく処分されているか係で点検し、分別処理の意識を高める。

⇒ 改善策を検討する。

- ・進路指導部の重点取組事項① ⇒ C **資料1の12ページを参照**

①「キャリア・パスポート」を活用した小・中・高一貫したキャリア教育の在り方を検討する。

⇒ 改善策を検討する。

ウ 教職員アンケートに関して

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、各別に見ると、以下の2項目が75%を下回った。 **資料3を参照**

・NO.9 交流及び共同学習 高等部 ⇒ 68.8%

⇒ 実施の可能性について検討する。

・NO.28 総合評価 高等部 ⇒ 73.7%

⇒ 自由記述で出た意見や要望を参考にしながら、改善策を検討する。

- ・自由記述には、会議に関すること、ろう学校のグラウンド使用に関すること、高等部における交流及び共同学習に関すること、インターネット環境や校務用パソコンに関することなどについて意見や要望があった。そのうち、改善策の検討が必要又は望ましいと判断したのは次の1点。

資料2の2ページを参照

- ・会議の設定や運営方法について
- ・高等部における交流及び共同学習について（再掲）
- ・インターネット環境や校務用パソコンの整備について

⇒ 改善策を検討する。

エ 児童生徒アンケートに関して

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・今年度初めてアンケートを実施したため、昨年度の平均値との比較はできない。
- ・達成度が75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、各別に見ると、以下の1項目が75%を下回った。 **資料3を参照**

・NO.9 部活動 高等部対馬分教室 ⇒ 71.4%

⇒ 改善策を検討する。

- ・自由記述には、「ここを変えてほしい」という意見はあまりなかったが、高等部生徒から、学校生活について意見が出ていた。改善策の検討が必要又は望ましいと判断したのは次の1点。

資料2の4ページを参照

・高等部の学校生活について

⇒ 改善策を検討する。

オ 保護者アンケートに関して

- ・平均値が 2.5 ポイントを下回った項目はなかった。
- ・昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイントを下回った項目はなかった。
- ・達成度が 75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、各部別に見ると、高等部及び高等部対馬分教室において以下の 3 項目が 75%を下回った。 **※資料 3 を参照**

- ・ NO.3 交流及び共同学習 高等部 ⇒ 68.8%
- ・ NO.9 寄宿舎の運営 高等部対馬分教室 ⇒ 33.3%
- ・ NO.11 美化 ⇒ 高等部対馬分教室 ⇒ 50.0%

⇒ NO.3 と NO.11 については改善策を検討する。NO.9 については、高等部対馬分教室には寄宿舎がなく、改善の余地がないため検討しない。

- ・自由記述には、児童生徒への指導や関わり方に関する事、授業参観や学級懇談会の回数に関する事、学部間の連携に関する事などについて意見や要望があった。これらの意見をアンケートの項目に照らし合わせると、次の 3 項目に集約できると考える。

※資料 2 の 6 ページを参照

- ・ NO.4 個別の指導計画、個別の教育支援計画
- ・ NO.5 人権尊重、体罰防止、いじめ防止
- ・ NO.6 進路指導
- ・ NO.12 授業参観や学級懇談の回数

⇒ 改善策を検討する。

② 具体的な改善策について

ア 高等部における ICT の活用について

※資料 1 の 3、4 ページを参照

- ・県教育委員会や県教育センターが出している研修動画や資料を活用しながら、積極的に授業で実践し、実践事例を増やす。
- ・情報教育部を中心に校内での研修会を開催し、教職員の理解を深める。

イ ごみの分別について

※資料 1 の 10 ページを参照

- ・廃棄物置き場に関する注意事項を作成し、教職員に周知するとともに、廃棄物置き場の入り口に掲示する。

ウ キャリア教育について

※資料 1 の 12 ページを参照

- ・小学部、中学部、高等部で系統性をもたせながらキャリア・パスポートを活用できるように、進路指導部が中心に他の分掌部と連携しながら、令和 6 年度 1 学期の各部の取組や様式をまとめ、内容や様式の検討を行う。

エ 高等部における交流及び共同学習の実施について

※資料 3 と資料 2 の 2 ページ参照

- ・これまで、高校生との交流に関しては「長崎県高等学校総合体育大会」や「長崎県高等学校総合文化祭」、「高校生フェス in プラザおおむら」などに参加してきた。また、地域との交流に関しては、清掃活動や作業学習の実習で交流を行ってきた。
- ・高等部の場合、小学部や中学部が行っている学校間交流、小学部が行っている居住地校交流と同様の交流は難しいと思われるが、実現可能な活動や方法がないか再度確認し、実施の可能性について検討する。

オ 会議の設定や運営方法について ※資料2の2ページを参照

- ・教務を中心に来年度の行事予定を作成しており、教師が多忙となる個別の指導計画等の作成や成績処理などの期間は、授業を短縮日課にするとともに、ノー会議デイとするよう調整中。
- ・会議の設定や実施方法については、原則として以下のとおりとする。

- ・会議の担当者は、原則として二日前までに会議資料を参加者に配付する。
- ・参加者は、事前に資料に目を通し、意見や質問があれば事前に準備しておく。
- ・説明者は、資料を読むなどの説明は省き、要点を押さえて説明する。
- ・司会者は、会議を始める前に終了時刻を確認し、時間内に終了できるように進行する。
- ・会議の時間が不足するとあらかじめ考えられる場合は、児童生徒が早く下校する金曜日に会議を設定するなど、事前に教務部と調整をする。
- ・毎年定例となっている会議（〇〇委員会など）は、前年度中に教務部に開催時期を伝えておき、次年度の行事予定に組み込んでおく。

カ インターネット環境や校務用パソコンの整備について ※資料3と資料1の2ページを参照

- ・インターネット環境に関しては、各教室等（体育館を除く）は、県の事業によりネットワーク環境を整備済み。今年度、職員室のアクセスポイントを増設済み。
- ・校務用パソコンは、今年度中に35台を新規に設置するとともに、学校予算で2台、リース譲渡で2台を設置する予定。

キ 高等部対馬分教室における部活動について ※資料3と資料1の5ページを参照

- ・高等部対馬分教室は、生徒や教職員の人数、活動場所、活動時間などの制約が多く、これ以上の活動は難しいと思われるが、改めて生徒に意見を聴くなどして、改善できないか検討する。

ク 高等部の学校生活について ※資料1の4ページ、資料2の2ページを参照

- ・委員会活動の活動内容や時間設定を見直し、生徒会活動の活性化を促す。
- ・心の教育、人権教育、情報教育等を、今年度の取組を基に見直しをし、より充実させる。
- ・必要に応じて生徒と共に校則の見直しを行う。
- ・教師自らが進んで挨拶をするとともに、生徒会と連携しながら本校のキャッチフレーズである「は：はきはき あいさつ 虹の原」を更に浸透させ、「あいさつ運動」の充実を図る。

ケ 高等部対馬分教室の美化について ※資料3と資料1の5ページを参照

- ・落ちているごみがあれば拾う、汚れていれば掃除をするという雰囲気づくりをする。

コ 個別の指導計画、個別の教育支援計画について ※資料2の6ページを参照

- ・次の学年に進級する際や次の部に進学する際には、児童生徒の個別の指導計画や個別の教育支援計画を十分に活用する。
- ・個別の教育支援計画に関しては、保護者との面談の際に、聞き取りを行う理由を改めて丁寧に説明し、保護者の理解を促す。

サ 人権尊重、体罰防止、いじめ防止 ※資料2の6ページを参照

- ・児童生徒への指導や関わり方については、保護者から意見が出ていることを教職員に周知するとともに、児童生徒一人一人の命と人権を尊重し、体罰や不適切な言動によらない指導を徹底するように校長が改めて指導する。

シ 進路指導に関して **※資料2の6ページを参照**

- ・今年度は福祉事業所説明会を開催できなかったが、来年度は行政や福祉事業所の協力を得ながら実施する。

ス 授業参観や学級懇談の回数について **※資料2の6ページを参照**

- ・これまでは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるとともに、令和5年度からは高等部新校舎の増築工事で駐車場の確保が難しくなったため、実施にかなりの制約があった。
- ・令和6年度1学期は、高等部新校舎の増築工事が継続されており、駐車スペースの確保が難しいため、令和5年度と同程度の実施とする。工事が終了する2学期以降は、駐車スペースの状況を踏まえながら、実施の回数や実施方法を再検討する。

(4) 総括について

- ・各部等の自己評価、各分掌部等の自己評価に関しては、「改善策を検討する視点」に該当しない項目についても、これまでの取組をより充実させるという視点で改善策を検討した部署が多かった。それぞれが考えた今回の改善策を踏まえて、各部等においては来年度の重点目標を、各分掌部等においては来年度の重点取組事項を設定し、取組の更なる充実を目指す。
- ・教職員アンケートは、内容を見直して実施した。これまでより項目数を増やしたことにより、回答する教職員の負担はやや増えたと思われるが、より詳細に評価や分析ができるようになった。またwebで回答してもらったことにより、集計作業の負担が大幅に軽減できた。
- ・今年度初めて児童生徒向けにアンケートを実施し、紙媒体とwebでの回答ができるようにした。アンケートを実施することで、児童生徒の意見や要望を把握することができたので、来年度以降も実施を継続する。また、webでの回答は高等部の一部の生徒に限られていたが、生徒は卒業後、web回答する機会があると思われるので、今後も二つの方法で回答できるようにする。
- ・保護者アンケートの回答率が低かった。webで回答してもらったことが影響していると思われるが、集計作業の煩雑さを考えるとwebでの回答が望ましい。数年すると定着すると思われるので、今後もweb回答は継続する。保護者には、これまでと同様にアンケート回答への依頼文書を事前に配付するとともに、回答期間中に一斉メールを送信して回答を促す。
- ・保護者アンケートの結果を見ると、NO.9 交流及び共同学習の項目について、高等部保護者の評価が低かった。実際には、高等部においても、高校生との交流に関しては「長崎県高等学校総合体育大会」や「長崎県高等学校総合文化祭」、「高校生フェス in プラザおおむら」などに参加するとともに、地域との交流に関しては清掃活動や作業学習の実習で交流を行っている。一方で、小学部や中学部が行っている学校間交流、小学部が行っている居住地校交流と同様の交流は実施が難しく、実施には至っていない。今回実施した保護者アンケートの具体的評価項目には、「学校は、共生社会の実現に向けて、学校間交流や居住地校交流を適切に実施している」という尋ね方をしたが、これでは高等部生徒の保護者にとっては、具体的な交流の姿がイメージしにくかったのではないかと考える。そこで、来年度のアンケートは、高等部が行っている実際の例も加えて質問するように表現を変更する。
- ・今回、評価が高かった項目については、評価結果に甘んじることなく、今後も取組を継続する。

3 委員からの助言

【助言の視点】

- ・自己評価の結果の内容が適切かどうか。
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。
- ・学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組がどうか。

〔参考〕「学校評価ガイドライン〔平成28年改訂〕（平成28年3月22日 文部科学省）」

(1) 学校評価に関して

- ・学校評価に関する四つの視点は全て適切であった。
- ・自己評価やアンケート結果などの説明から、先生方がどうして忙しいのかよく理解できた。
- ・PDCA サイクルで学校運営がなされていることがよく分かった。
- ・学校評価の評価基準が4・3・2・1の場合、中央値の2.5を基準にしているのか。3未満は改善策を検討するようにした方が良いのではないか。
- ・児童生徒にアンケートを実施したのはとても良かった。子供たちの思いが詰まっている。これを基に対策を考えるのは良い。
- ・保護者アンケートの回答率が低かったことから、全ての意見を聞き取ることができていない可能性がある。来年度は回答率を向上させるための手立てが必要であると考えます。
- ・就労支援に関して、保護者アンケートに「進路や実習に関する情報が少ない」という意見があったのが気になる。次年度の取組に期待する。
- ・大村市内には就労継続支援B型事業所が25か所あり、来年度からその取りまとめを行政が行うことになっている。福祉事業所説明会の開催については、今後は行政に頼る視点があってもよい。
- ・キャリア・パスポートを作成することで教員の事務量が増えているのか。教員の事務量を削減して、子供たちと関わる時間を大切にしてほしい。
- ・体罰、セクハラ、パワハラは全国的にも問題になっているので、気を付けてほしい。
- ・ろう学校との連携に関しては、県教委にお願いしながら進めると良い。
- ・校舎増築の進捗状況の情報を随時いただいている。引き続き町内に情報を回したい。

(2) その他

- ・子供たちには、「先輩へのあこがれ」を持たせるような活動を多く取り入れてほしい。
- ・ICTにはメリットとデメリットがあることを踏まえて活用する必要がある。
- ・コロナ禍でマスクを着用したことがコミュニケーション能力の低下につながった。この部分を踏まえて研修しても良いと思う。
- ・地震に対する対策は大切。
- ・校舎増築の情報を随時いただいている。引き続き町内に情報を回したい。
- ・郡川が氾濫したときの浸水の標示が地域にあるので参考に。
- ・新たに学校の近隣に住宅地ができているので、登下校時には気を付けてほしい。